IV—21　買物時における大規模独立店舗の選択要因について

豊田高専　正員　○川上　雅一
豊田高専　正員　栗本　譲
豊田高専　正員　荻野　弘

1　はじめに

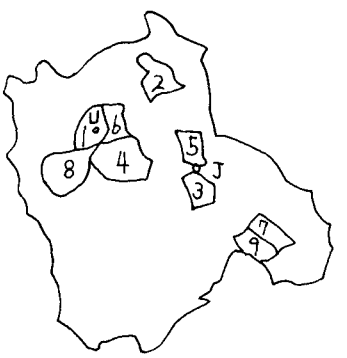
近年，都市近郊においては，モータリゼーションの進行を背景に大規模な売場面積，専用駐車場をもち，広範な商圏を有する大規模独立店舗が各地に進出している。これら大規模店舗は，その大きな吸引力で，大きな発生集中交通量を生じさせるため，これら店舗の駐車場入口に生じた待ち行列により，周辺の交通流に影響を及ぼすような現象すら見うけられる。筆者らは，これら大規模独立店舗に着目し，調査研究を行ってきたが，本報文は豊田市挙母地区において，実施された買物動向調査について考察したものである。

2　買物動向調査の概要

本調査は，昭和54年11月，豊田市挙母地区において実施されたものである。調査項目は，1)属性に関する項目，2)交通に関する項目，3)店舗利用に関する項目，4)豊田新線開通による影響を考慮した項目の4種に大別できる。（表－1）なお，対象店舗として，市内有数の店舗であるJ店および，中規模店ではあるが，比較的に広範な商圏をもつと考えられるU店の2店を選定した。また，調査対象地区は，1)店舗周辺の地区，2)J，U両店の中間に位置する地区，3)J，U両店まで時間距離のほぼ等しい地区という基準で選定した。なお，調査日以前の昭和54年7月29日に名鉄豊田新線が，名古屋市営地下鉄3号線と，相互乗り入れ方式で開通しているのでその影響を考慮するため，豊田新線の始発駅のある梅坪町を追加した。この結果，調査対象地区は図－1に示すように9地区となった。調査は，対象地区5178世帯のほぼ12.5％にあたる649世帯を抽出して実施したものである。調査票は世帯票と個人票から成っており，個人票では，15才以上の全員を調査対象とした。この結果，世帯票の有効回収数は，593票で有効回収率91.4％，また個人票の配布数1176票で，有効回収数990票有効回収率は82.5％であった。

表－1　調査項目

	調査項目
属性	性別
	年令
	職業
	世帯収入
交通	自動車保有台数
	オートバイ〃
	自由になる自動車の有無
	〃　オートバイ〃
店舗利用	買物状況
	〃　頻度
	利用理由
	購入商品
	交通手段
	理由
	店舗までの時間
豊田新線の影響	名古屋での買物
	購入商品
	理由



1.朝日町
2.梅坪町
3.金谷町
4.小坂町
5.挙母町
6.日南町
7.前山町
8.宮上町
9.明和町

図－1　ゾーン図

3　調査結果

(1)　年令構成　　「30才代」がもっとも39.4～43.9

%，以下「40才代」19.1 %，「20才代」18.4 %となっている。

(2) 職業　「主婦」がもっとも多く45.4 %，ついで「技術・事務職」15.1 %となっている。

(3) 世帯収入　「300～350万円」がもっとも多く16.1 %，ついで「250～300万円」の15.8 %となっている。なお平均世帯収入は約310万円であった。

(4) 自動車保有　全593世帯で自動車保有台数（貨物車を含む）は880台であり，1.48台/世帯となっている。

(5) オートバイ保有　同様に593世帯で124台であり，0.21台/世帯となっている。

(6) 個人の自由になる自動車の有無　個人全体970人のうち，61.6 %の人が自由になる自動車を有している。

(7) 個人の自由になるオートバイの有無　全体の12.9 %が，自由になるオートバイを有している。

(8) 買物状況　全体の69.8 %の人が，両店で買物をしている。J店のみという人は全体の，25.5 %，またU店のみという人は全体の2.2 %にすぎない。一方，両店とも買物経験のない人は全体の2.5 %のみであった。両店で買物している人のうち，主にJ店利用の人は全体の27.9 %，主にU店利用の人は全体の29.1 %であった。

(9) 利用頻度　J店利用者では「月に1～2回」がもっとも多く47.1 %，ついで「週に1回」の22.1 %となっている。週1回以上利用を「多い」とし，それ以下を「少ない」とすると「多い」は39.1 %，「少ない」は60.9 %となる。一方，U店では「月に1～2回」がもっとも多く，30.4 %となっているが，「多い」が57.2 %，「少ない」が42.8 %となっている。

(10) 利用理由　J店では「商品の種類・量が豊富」58.9 %と卓越しており，ついで「専門店がある」11.6 %となっている。またU店では，「他に適当な所がない」26.3 %，ついで「商品の種類量が豊富」21.2 %となっている。

(11) 利用交通手段　J店では「自動車」75.8 %，ついで「自転車」11.9 %となっている。一方，U店では「自動車」45.2 %，ついで「徒歩」27.9 %となっている。

(12) 豊田新線の影響　「豊田新線開通後，豊田新線を利用して名古屋方面での買物等の回数が増えましたか」という設問に対し，豊田新線の始発地である梅坪町では11.3 %の人が「かえた」と回答している。梅坪町を除く他地区では，「かえた」との回答は，3.3 %にすぎない。

4 利用頻度と他項目との関連

利用状況をもっともよくあらわすと考えられる利用頻度について，他項目との関連を探るため，クラマーのV係数を算定した。ここに他項目として，「地区」，「年令」，「性別」，「職業」，「自由になる自動車の有無」，「自由になるオートバイの有無」の6項目を選定した。結果を図-2に示す。図より明らかなように，J店では「性別」，「地区」が比較的高い値を示すが，変動は少ない。ところがU店では，「性別」，「自由になる車の有無」，「地区」が卓越しており，J店に比べ，変動の大きいことを示している。

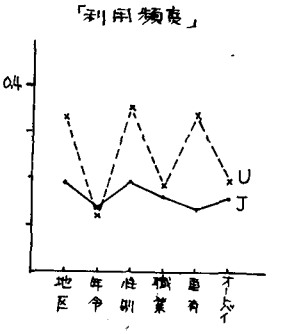


図-2 クラマーのV係数